



HX Smart Call Home データ コレクションの構成

この章では、Cisco Hyperflex システムの Smart Call Home データ コレクションの設定方法について説明します。

- [データ コレクションの Smart Call Home の構成 \(1 ページ\)](#)

データ コレクションの Smart Call Home の構成

データ コレクションは、デフォルトで有効ですが、インストール時にオプトアウト（無効）することができます。クラスタ作成後のデータ コレクションを有効にすることもできます。アップグレード中に、Smart Call Home がレガシー構成に基づいて設定されます。たとえば、`stcli services asup show` を有効にすると、アップグレード時に Smart Call Home が有効になります。

HX ストレージ クラスタに関するデータ コレクションは、https を介して Cisco TAC に転送されます。インストールされているファイアウォールがある場合、Smart Call Home のプロキシ サーバの構成は、クラスタ作成の後に完了します。



(注) HyperFlex Data Platform リリース 2.5(1.a) では、Smart Call Home Service Request (SR) の生成でプロキシ サーバは使用されません。

Smart Call Home を使用するには次が必要です。

- 対応する Cisco Unified Computing Support Service 契約または Cisco Unified Computing Mission Critical Support Service 契約と関連付けられた Cisco.com ID。
- 登録されるデバイス用の Cisco Unified Computing Support Service または Cisco Unified Computing Mission Critical Support Service

ステップ 1 HX ストレージ クラスタ内のストレージ コントローラ VM にログインします。

ステップ 2 サポート付きの HX ストレージ クラスタを登録します。

HX ストレージクラスタを登録すると、収集されたデータに ID を追加し、Smart Call Home を自動的に有効にします。HX ストレージクラスタを登録するには、電子メールアドレスを指定する必要があります。登録後、このメールアドレスは、問題があり TAC のサービス要求が生成されるたびにサポート通知を受け取ります。

構文：

```
stcli services sch set [-h] --email EMAILADDRESS
```

例:

```
# stcli services sch set --email name@company.com
```

ステップ 3 HX ストレージクラスタからサポートへのデータ フローが稼働していることを確認します。

稼働しているデータフローにより、生じる可能性のある問題のトラブルシューティングのサポートに役立てるための適切な情報が容易に利用できることが保証されます。

-すべて オプションの HX クラスタ内のすべてのノードのコマンドを実行します。

```
# asupcli [--all] ping
```

HX ストレージクラスタを HyperFlex 1.7.1 から 2.1.1b にアップグレードする場合は、次のコマンドも実行します。

```
# asupcli [--all] post --type alert
```

次のエラーが表示される場合はサポートに問い合わせてください。

```
root@ucs-stctlvm-554-1:/tmp# asupcli post --type alert
/bin/sh: 1: ansible: not found
Failed to post - not enough arguments for format string
root@ucs-stctlvm-554-1:/tmp#
```

ステップ 4 (省略可能) ポート 443 を介した Smart Call Home のアクセスを有効にするためにプロキシ サーバを設定します。

クラスタの作成後、HX ストレージクラスタがファイアウォールの背後にある場合は、Smart Call Home プロキシサーバを構成する必要があります。サポートは、url: https://diag.hyperflex.io:443 エンドポイントでデータを収集します。

1. 既存の登録メールとプロキシ設定をすべてクリアします。

```
# stcli services sch clear
```

2. プロキシと登録メールを設定します。

構文：

```
stcli services sch set [-h] --email EMAILADDRESS [--proxy-url PROXYURL] [--proxy-port PROXYPORT]
[--proxy-user PROXYUSER] [--portal-url PORTALURL] [--enable-proxy ENABLEPROXY]
```

構文の説明	オプション	必須またはオプション	説明
	--email EMAILADDRESS	必須です。	Cisco サポートからのメールを受信する人の電子メールアドレスを追加します。配布リストまたはエイリアスを使用することを推奨します。
	--enable-proxy ENABLEPROXY	オプション。	プロキシの使用を明示的に有効または無効にします。
	--portal-url PORTALURL	オプション。	代替の Smart Call Home ポータルの URL を指定します（該当する場合）。
	--proxy-url PROXYURL	オプション。	HTTP プロキシの URL を指定します（該当する場合）。
	--proxy-port PROXYPORT	オプション。	HTTP プロキシのポートを指定します（該当する場合）。
	--proxy-user PROXYUSER	オプション。	HTTP プロキシのユーザを指定します（該当する場合）。
			HTTP プロキシのパスワードを指定します（メッセージが表示される場合）。

例:

```
# stcli services sch set
--email name@company.com
--proxy-url www.company.com
--proxy-port 443
--proxy-user admin
--proxy-password adminpassword
```

3. プロキシサーバが動作しており、データが HX ストレージクラスタからサポート ロケーションに流れることを確認するために Ping を送信します。

```
# asupcli [--all] ping
```

-すべて オプションが HX クラスタ内のすべてのノードで、コマンドを実行します。

ステップ 5 Smart Call Home が有効になっていることを確認します。

Smart Call Home の設定が `set` の場合、自動的に有効になります。

```
# stcli services sch show
```

Smart Call Home が無効の場合は手動で有効にします。

```
# stcli services sch enable
```

ステップ 6 自動サポート（ASUP）通知を有効にします。

一般に、自動サポート (ASUP) は HX ストレージクラスタの作成中に設定されます。設定されなかった場合、HX Connect または CLI を使用してクラスタ作成後の設定を有効にすることができます。詳細については、[HyperFlex の Auto Support](#) と [Smart Call Home](#) を参照してください。
